

2020年8月28日(金)

みらいとびら 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第136号

変化する支援

2学期が始まりました。夏休みもいいですが、友達と会ってワイワイ過ごせる学校もいいものです。生徒達もテンション高く、ちょっと楽しそうな顔をしています。

ある時、生徒のワイシャツの右袖のボタンが留まっていないことに気付きました。左袖のボタンはきちんと留められているのに、です。

「右のボタン外れているから、留めてごらん。」

「はい。……できませんでした。先生、お願いします。」

「慌てなくていいから、もう一回だけやっごらん。左手では、やりにくいよね。それでも難しかったら手伝いますから。」

「はい。……あ、できました。」

「おお、できた😊」

右ききの生徒が左手で細かい作業をする、これはわれわれが思うより難しいことのようにです。1年生を見ていると、こういうことがよくあります。左のツメは切られているのに、右のツメは伸びたまま、とか。整えようとする気持ちはあるのですが、その力(スキル)が追いついていないのが残念です。

ただ、練習すれば必ず上手になっていきます。3年生で見かけないのはスキルアップできているからなのでしょう。

え？おかしい！なんかこの文章読んだことある！

と、思った方の記憶力はすばらしい。じつは、つい2か月前ほどの134号と全く同じ文章です。ソーシャルスキルやライフスキルの回なのですが、覚えてらっしゃいますか？

今日は『変化する支援』について少しお話します。

「先生、お願いします。」と礼儀正しく生徒に言われたのに、ボタン留めを断るのは、ちょっと……“人”としてとても心苦しいことでした。ただ一方、先生や保護者である“支援者”の

立場では踏ん張りどころでもあります。

もしお家でこのような状況になったら、どうしますか？

①ボタンを大人が留めてあげる

②生徒自身ができるように声を掛けながら促す

“支援”は上の2つのどちらのイメージが近いですか？

①も②も両方支援です。

幼い頃は、留めてあげていましたよね。じゃあ今どちらの支援をするか？と考えた場合、それは生徒の状況によって違います。左袖のボタンが留められている事を見ると、ボタンは留めるものだという意識があり、なおかつ右手にはその力があります。もう一步のところ、といった状況です。この生徒には②の支援ですね。①をしてしまうと、逆にライフスキルを付け損ねることにつながります。ここが、踏ん張りどころという意味合いです。手の麻痺など特別な理由がある場合を除き、その子にあった支援は変化していきます。

ソーシャルサポートでは、①は手段的サポート、②を情緒的サポート、評価的サポートとしています。

「留めてごらん。」ですぐ留められる生徒もいるかもしれませんが。しかしそれだけでなく、「左手では難しいよね～」といった共感や「見てるから、もう一回だけしてごらん。それでも難しかったら手伝いますから。」といった心のハードルを下げる声掛けが安心してチャレンジできる支援になってきます。自分の努力や行動を肯定されるほめ言葉もチャレンジしてよかったと思うことができます。

何より、②の支援は、それ以降自分の力になります。

保護者の方も、今までつい手助けをしていることで見直す事はありますか？幼いころのできない事がいっぱいあった生徒のイメージがまだ残り、任せられないと思う気持ちがあるかもしれません。しかし、なんとなく続けてしまっている『同じ支援』を見直してみましよう。少しずつ手を引くことも自立の手助けになっていきます。成長とともに支援は変わっていくもの。そしてより一層の成長につながっていきます。

うちの先生♪ K.H先生

<レポーターはN山です>



◆高特8年目、いつでも全力！進路指導部のK先生、先生の出身地を教えてください。

私の出身地は兵庫県丹波篠山市です。(昨年町の名前が丹波篠山市になりましたね)。自然豊かなところで秋になると栗や黒豆、山芋が収穫できます。(あとは猪肉が有名ですね)猪肉も有名ですが、地元のスーパーでは鹿肉も販売するときがあるんです。(え、鹿肉ですか?) そうなんです。スーパーの店頭で「現在、山で鹿が増えてきたので、みんなで鹿を食べよう」と書かれていて地元を挙げての鹿肉キャンペーンが始まるのです。街中では考えられないでしょ。鹿肉の味はたんぱくでおいしいですよ。だから我が家では秋は鹿肉、お正月は猪肉(ぼたん鍋)が食卓の楽しみでしたね。

◆コロナウイルスによるステイホーム生活の中で何か始めたことはありますか？

ありますよ。筋トレです。自宅でYouTubeを見ていたら「宅トレ」があって、自分の好きな音楽を聴いてその時の時間に合わせてメニューを組むことができるから無理なく楽しんで筋トレができるんです。だから今も毎日、続けることができますよ。また筋トレを始めてから食事改善も意識するようになり、野菜やたんぱく質をとるメニューを考えるようになりました。筋トレを続けていくことで体が軽くなり、肩こりも減ってきました。

◆学生時代の思い出を教えてください。

大学生活のスタートは寮生活で、北海道、神奈川、岡山、兵庫の女4人の共同生活が思い出に残っていますね。それぞれの方言が混ざり合って言葉や文化の違いが新鮮でしたね。そのときの仲間は今でも仲が良くて年賀状のやりとりや1年に1回、食事会などで集まっています。(共同生活で4人の絆が深まったのですね)

大学では、中国の思想家、王充について研究しました。(おうじゅう?初めて聞く名前です)彼の思想の1つに、「人の天命は決まっている。運命は大きく変えられないが、自分のその時にできることを精一杯やっていくこと、それに従い生きていこう。」という考えがあります。王充の考えは私の生活の支えとなっています。(いつでも全力で取り組む先生の姿勢は、王充の考えが根っこにあるのですね。)